

平成24年度 尾道市教育研究指定校  
(コミュニティ・スクール)

# 研究紀要

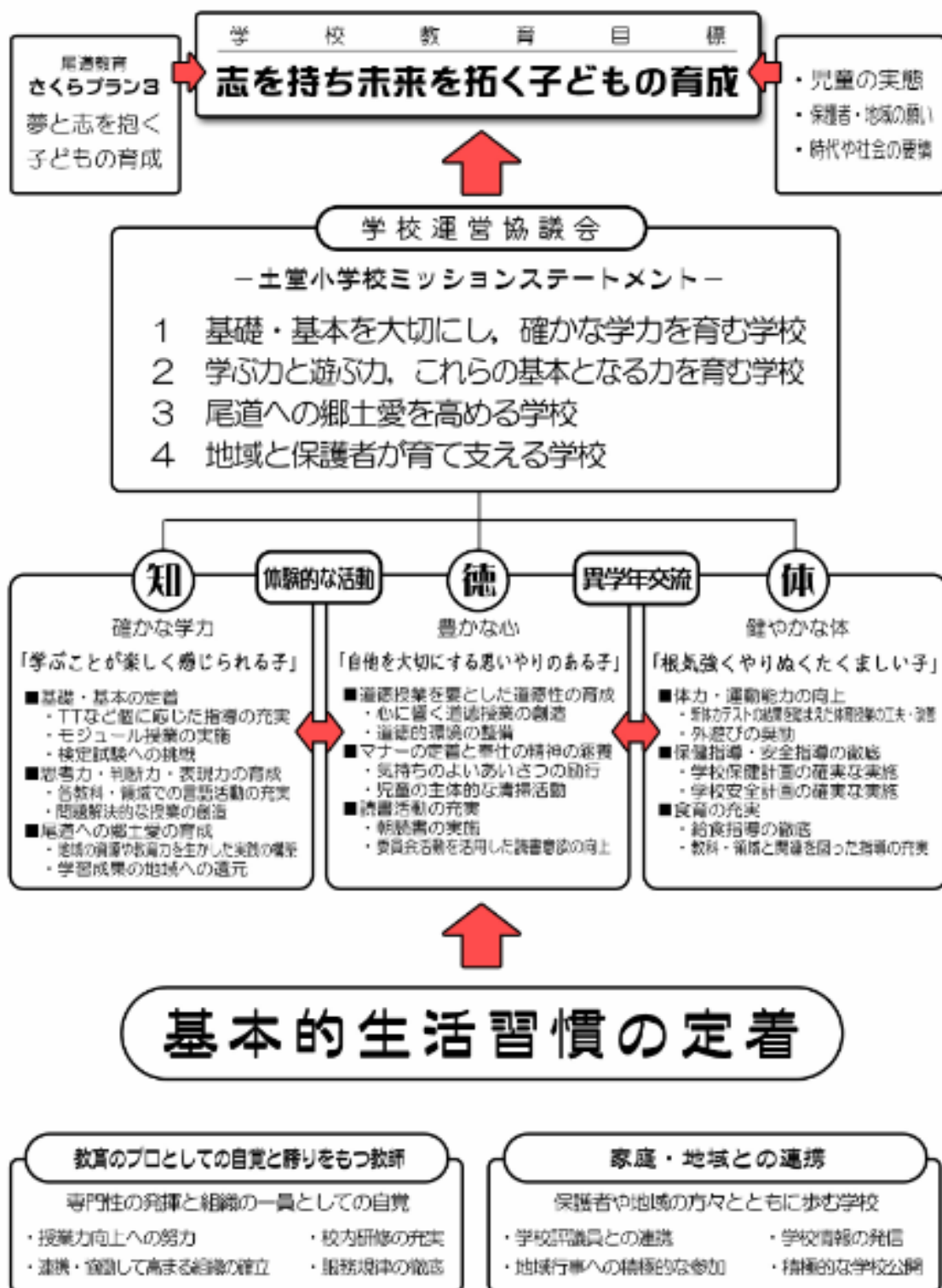
研究主題

豊かなコミュニケーション能力を活用する子どもの育成  
— 言語活動の充実を図った授業づくりを通して —



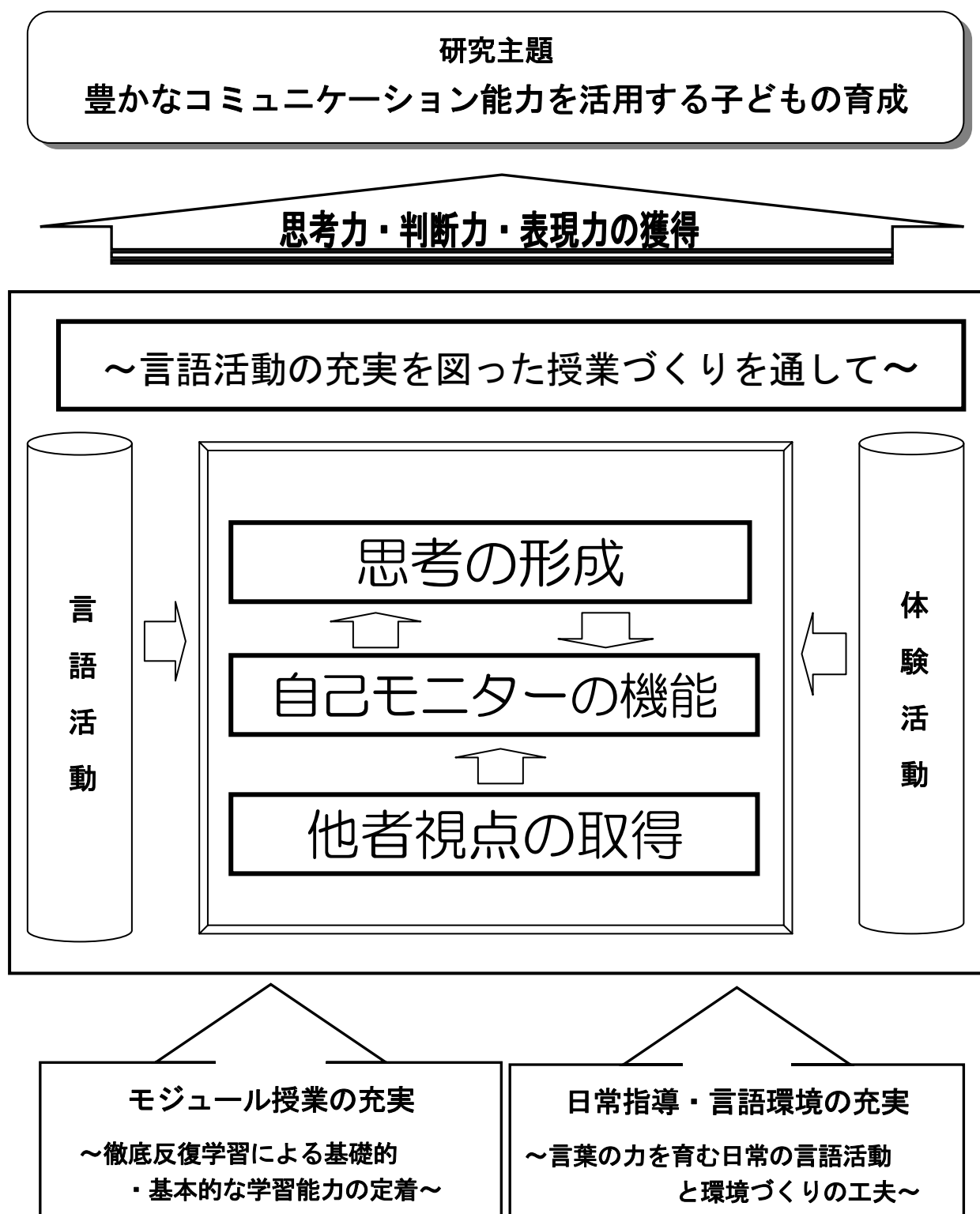
尾道市立土堂小学校

# I 平成24年度 土堂小学校スクールプラン



## Ⅱ 教育研究計画

### 1 研究構想



## 2 研究の概要

### (1) 研究主題

豊かなコミュニケーション能力を活用する子どもの育成  
—言語活動の充実を図った授業づくりを通して—

○「豊かなコミュニケーション能力」とは、

人（自分）と人（他者）との関係において、お互いの立場や考えを尊重しながら、相手や目的や場面や状況などに応じて、適切に言語を運用することができる力

### (2) 研究主題の設定理由

本校は「尾道市教育研究指定校」の指定を受け、「豊かなコミュニケーション能力を活用する子どもの育成」という研究主題のもと、平成 23 年度より「言語活動の充実を図った授業づくりを通して」を副題として取り組んできた。指導者は、児童が他者とのかかわり合う言語活動を意図的に授業で仕組み、それぞれの教科や領域等におけるつけたい力を児童に身に付けさせるように授業改善に取り組んできた。

これにより、児童は他者とのかかわり合いながら学ぶことの楽しさを味わうとともに、他者の発言を聞き、自分なりの考えや意見を述べる姿が増えてきた。また、モジュール授業や「話す・聞く」の日常的な取組を関連させて取り組むことで、学習を支える基礎的・基本的な言語の力を高めることができた。しかし、思考を深める場面において、児童同士が考えをつないだり、広げたりしながら学びを高めていく姿は少なく、一部の児童に発言が偏ったり、自分の考えを出し合うだけに終始したりすることが多かった。その要因として、児童が「自分の考えや意見を持つことに自信がない。」「自分や他者の考えや意見のちがいや良さに気付いていない。」「他者の意見を手がかりにして学びを深めていく喜びや充実感が十分に味わえていない。」ということが課題として挙げられた。

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献していくことがより一層求められていく。

本校の目指す豊かなコミュニケーション能力とは、『人（自分）と人（他者）との関係において、お互いの立場や考えを尊重しながら、相手や目的や場面や状況などに応じて、適切に言語を運用する力（学習指導要領より）』ととらえている。それらを豊かに活用していくことは、他者との協調や協働を図りながら、課題に対して新たな答えを導いたり、新たな価値を見出したりすることにつながり、これからの時代を生き抜いていく児童にとって、これらの資質・能力を育てていくことは大変重要であるととらえる。

そこで、本研究主題を「豊かなコミュニケーション能力を活用する子どもの育成」とし、言語活動の充実を図った授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を高め、他者とより豊かにかかわり合いながら、自分と他者のよさに気づき、共に学びを深めていこうとする児童の育成をめざすこととした。

### (3) 研究の内容 (方向)

豊かなコミュニケーションを生み出していくためには、他者とかかわり合う目的や場といった必然性を仕組んでいくと共に、コミュニケーションの輪を構成している一人一人が他者の考えや意見を受容したり、尊重したりしながら、よりよい考えや価値を生み出していくための思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。つまり、コミュニケーションの輪を構成している一人一人の「自分とは異なる他者を認識し、理解する」「他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する」「他者との協調、協働を図りながら思考を深めていく」といった能力を高めていくことで、より豊かなコミュニケーション能力を活用していく力が高まると考える。

そこで本年度は、国語科・社会科・道徳等において、それぞれの教科・領域等のねらいを達成するための伝え合い・学び合う言語活動を取り入れた授業づくりを進めると共に、前年度までの課題を受け、『思考の形成』『自己モニターの機能』『他者視点の取得』を関連づけながら言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育てていくように研究を進めることとした。

### (4) 研究仮説

教科・領域等のねらいを達成するための伝え合い・学び合う言語活動を設定し、『思考の形成』『自己モニターの機能』『他者視点の取得』を関連づけた手立てを工夫すれば、思考力・判断力・表現力が育まれ、豊かなコミュニケーション能力を活用する力を育成することができるであろう。

### (5) 研究の方法

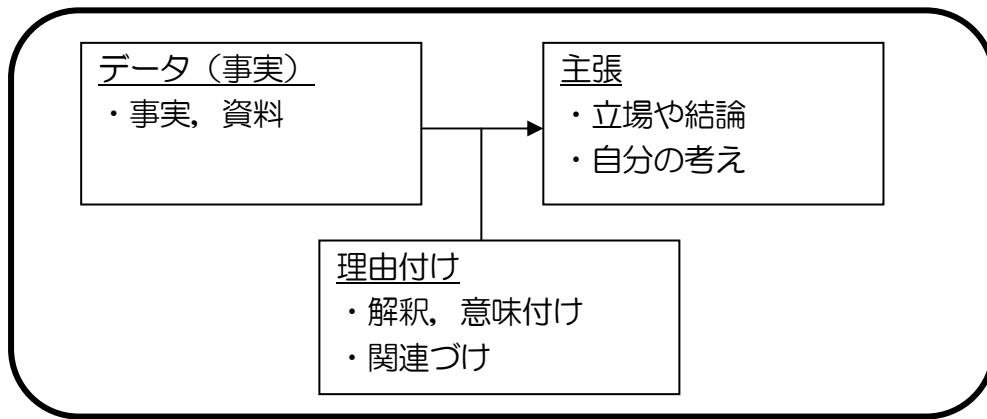
視点	概要	方法
①思考の形成	「事実」「論拠 (主張)」「理由付け」を整理し、理由付けをもとに論を組み立てたり、新たな学びを構築したりする。	○ ツールミンの図式の活用またはツールミンの図式を活用した授業づくり ○ 『理由付けを表現する言葉』の活用
②他者視点の取得	観察したり推測したりした他者の気持ち・考え・立場を推し量る。	○ 他者とかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫
③自己モニターの機能	自分の行動や思考方法そのものを自分で反省・ふり返り・修正する。	○ 自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直すふり返りの場の設定

## 思考の形成

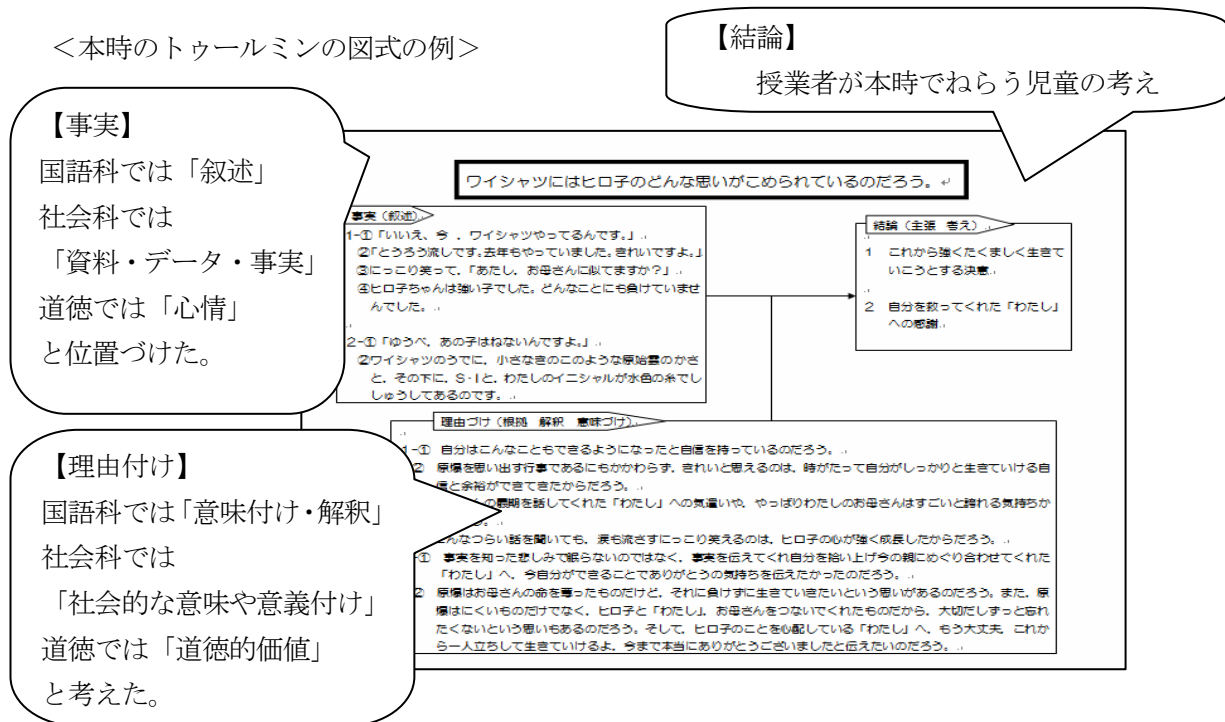
### ○ ツールミンの図式を活用した授業づくり

児童の思考が深まる話し合いを展開するためには、事実と理由付けと考え（主張・解釈）とを区別し、児童にそれらを意識させることが大切と考える。そこでツールミンの図式を活用して授業者が教材分析を行い、それらを授業の中に生かすようにした。ツールミンの図式は、イギリスの分析学者ツールミンが提唱した議論レイアウトを参考に、議題に対する「主張（結論）」を支える根拠を「事実・根拠（データ）」と「理由付け」に分けて、3つの要素を構造化したものである。この図式を作成することで、授業者は本時でとらえさせたい考えや意見を具体的にイメージし、授業の中で、児童の意見を類型化したり、さらに深めるための手立てを考えたりすることができる。また、児童に「事実と考え（主張・解釈）」を区別しながら考えを深める活動を取り入れやすくなると考える。

<ツールミンの図式の基本レイアウト>



<本時のツールミンの図式の例>



○ 『理由付けを表す言葉』の活用

児童の思考を深めていくために、ことばの活用が有効であると考えている。「例えば・・・」「もし～すると・・・」「これらをまとめてみると・・・」といった言葉を契機として、様々な思考を形成する手がかりとなると考える。

理由付けを表す言葉

低学年

①	～だとも思います。わけは・・・だからです。
②	たとえば・・・してみたら・・・となったからです。
③	もしも～だったら・・・～ということになるからです。
④	まえにべんきょうしたことで・・・～ということになるからです。
⑤	〇〇さんのかんがえとおなじで・・・～だからです。
⑥	〇〇さんのかんがえとちがって・・・～だからです。
⑦	～はおなじだけど～のところはちがいます。それは・・・～だからです。

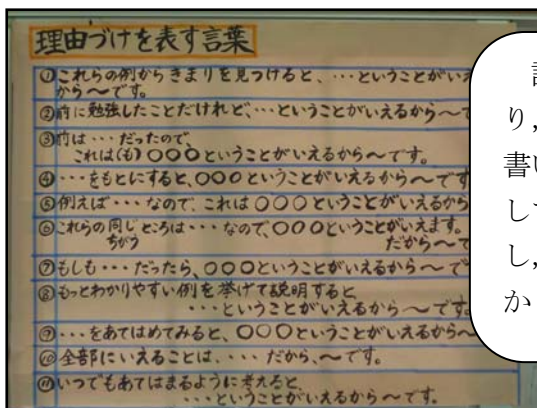
中学年

①	これらのことから、(きまりをみつけると)・・・～ということが言えます。
②	前に勉強したことを使うと・・・～ということが言えるからです。
③	前は～だったので、これも(は)・・・～ということが言えるからです。
④	たとえばそれは・・・なので、これは～ということが言えます。
⑤	これらの中で、同じところは・・・だから～ということが言えます。
⑥	これらの中で、ちがうところは・・・だから～ということが言えます。
⑦	もしも～だったら・・・～ということが言えるからです。
⑧	さらに・・・からすると～ということが言えるからです。
⑨	～をあてはめてみると・・・～ということが言えるからです。
⑩	ぜんぶに言えることは・・・だから～ということが言えます。
⑪	いつでもあてはまる(使える)ようにしてみると・・・～ということが言えるからです。

高学年

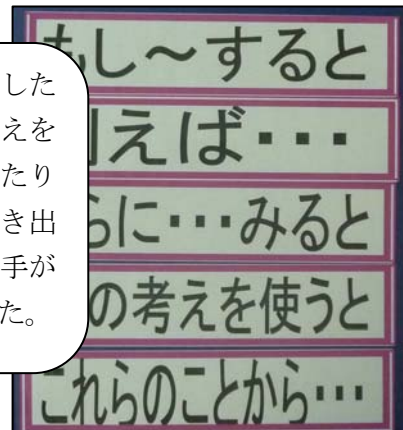
①	これらの例から、きまりをみつけると・・・
②	前に勉強したことをもとにすると・・・
③	前は～だったので、これも・・・
④	前は～だったのに、これは・・・
⑤	例えば・・・
⑥	同じところをみつけると・・・
⑦	違うところをみつけると・・・
⑧	もし～とすると、・・・
⑨	さらによい方法は・・・
⑩	このきまりを使うと、さらに・・・
⑪	いつでもあてはまる(使える)ように考えてみると・・・
⑫	これらをまとめてみると・・・

(平成 15 年度 尾道市立長江小学校の研究実践を参照して作成)



話型 (第4学年の掲示)

話型として活用したり、短冊にして考えを書いたり、発表したりして理由付けを導き出し、思考を深める手がかりとして活用した。



短冊 (第6学年)

## 他者視点の取得

## 自己モニターの機能

児童は、授業の中で、さまざまな友だちの考えや意見にふれることができる。他者の考えや意見の良さをとらえながら、自分なりにさらにより学びを創っていくことで、学びの充実感が得られる。そこで、他者とのかかわりを生む場を設定したり、その目的や方法を工夫して話合をい設定したりしながら、他者の考えのよさや自分の学びや学び方そのものを見つめ直す目を育てることがより質の高い思考を形成する上で重要であるとする。

### ○ 他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫



一斉、ペアやグループなど、目的に合わせて様々な学習形態を工夫したり、児童の思考を対照できるように整理したりして、他者の考えにふれられるようにする。



### ○ 自分の学びそのものを見つめ直す場の設定



友達の考えや意見を聞いて 「なるほど」「いいな」と思ったこと 「勉強になったな」と思ったこと 「自分の考えが深まった」と思ったこと	学習をふり返って 自分の考えが「深まった」 「増えた」 「変わった」 自分の学びに生かしたい「取り入れたい」
--	--

文字言語や音声言語にして、ふり返りをします。





## (6) 研究の柱

- ① 教科・領域等のねらいを達成するための伝え合い・学び合う言語活動を取り入れた授業づくりを行うことで、コミュニケーションを支える基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせることができる。
- ② 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニター」を促すことで言語活動を充実させることにより、児童に豊かなコミュニケーション能力を活用する力を身に付けさせることができる。

## (7) 検証の指標

観点	検証の指標及び方法		達成目標
① コミュニケーションを支える基礎的な力を定着させることができたか。	○「話し合い」「学び合い」への意欲及び習慣化した児童の割合	○児童アンケート及び観察	・肯定的評価82%以上 ・基本的な話型が定着している児童80%以上
	○ 広島県「基礎・基本」定着状況調査(国語科) ○ 全国学力状況調査(国語科)	○学力テスト分析	・学校平均通過率県平均通過率より+8以上
② 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を促すことで言語活動を充実させることにより、児童に豊かなコミュニケーション能力を活用する力を身に付けさせることができたか。	<b>【思考の形成】</b> ・学習前後における児童の考えの比較 ・理由付けをして考えを深めている児童の割合	○記述分析及び観察  ○「理由付けを表す言葉」の見取り表	・児童の思考に広がり、深まりが見られる児童80%以上  ・「理由付けを表す言葉」見取り表における児童の定着率80%以上
	<b>【他者視点の取得】</b> ・他者との考えの違いや共通点、及びそのよさに気づいたりした児童の割合。	○授業評価表による指導者の見取り	・自分と他者との学びを肯定的にとらえる児童80%以上
	<b>【自己モニターの機能】</b> ・他者の考えを自分に取り入れたり、自分の学びや学び方を修正したり、自分の学びの成長を実感したりした児童の割合。	○アンケート調査	・自分の学びや学び方をよりよくしようとしたり、その充実感を感じたりしている児童80%以上

## (8) 研究の経過

月	日	研修内容	講師等
4	3日(火)	学校経営構想について	
	4日(水)	モジュール授業について	
5	9日(水)	めざす子どもの姿の共通理解	
	16日(水)	各教科・領域における言語活動の設定について	
	30日(水)	部会研修(授業研究について)	
6	18日(月)	授業研究「社会」	小原友行先生(広島大学大学院教授)
	19日(火)	授業研究「国語」	
	25日(月)	授業研究「道徳」	谷田増幸先生(兵庫教育大学教授)
7	5日(木)	授業研究「モジュール」	
	18日(水)	夏季研修計画について	
	25日(水)	モジュール授業研修:教材開発について	
	26日(木)	「基礎学力」定着状況調査・全国学力学習状況調査の結果分析	
8	3日(金)	道徳地域公開指導案検討	
	6日(月)	「基礎学力」定着状況調査・全国学力学習状況調査の分析結果交流及び取組の指針の検討	
	8日(水)	研究会指導案検討 低学年	
	9日(木)	研究会指導案検討 高学年	
	21日(火)	部会研修(研究会指導案検討)	
	22日(水)	部会研修(研究会指導案検討)	
	29日(木)	カリキュラムマネジメントについて	吉富芳正先生(明星大学教授)
9	11日(火)	授業研究「国語」	河野智文先生(福岡教育大学准教授)
	12日(水)	部会研修(ツールミンの図式を使った教材分析について)	
	19日(水)	部会研修(ツールミンの図式を活用した授業づくりについて)	
	24日(月)	授業研究「国語」	安井盛一指導主査(尾道市教育委員会)
10	1日(月)	授業研究「道徳」	神原芳則指導主事(東部教育事務所)
	3日(水)	部会研修(ツールミンの図式を活用した授業づくりについて)	
	10日(水)	研究の成果と課題の分析	

### Ⅲ 具体的な取組

#### 1 教科・領域等のねらいを達成するための伝え合い・学び合う言語活動を取り入れた授業づくりを行う。

##### 《国語科 第2学年 単元名「1年生のために音読劇を開こう ～めざせ音読名人～」》

###### 本時の目標

お手紙の内容を知り、幸せな気持ちに変わる二人の様子や気持ちをとらえて音読することができる。



###### 扱った言語活動

がまくんとかえるくんのせりふや行動から、気持ちを考えて音読劇をすること。

###### 思考を深めさせるための手立て

かえるくんのお手紙が伝えるがまくんへの気持ちの強さに気付かせ、音読の工夫に活かせるようにするために、かえるくんが書いた本来のお手紙と、その内容を変えたお手紙とを比較させる。

##### 《国語科 第6学年 単元名「伝えよう 自分の考え～子孫を守る行動宣言 26～」》

###### 本時の目標

筆者の主張に対する自分の考えをまとめることができる。



###### 扱った言語活動

自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

###### 思考を深めさせるための手立て

要旨を的確に読み取り理解することができるようにさせるために、筆者の主張について、本文中の言葉を使って言い換えさせる。

##### 《国語科 第1学年 単元名「サラダでげんき」》

###### 本時の目標

アフリカそうと他の動物との役割の違いや共通点について読み取ることができる。



###### 扱った言語活動

児童自身が本教材に登場する場面をつくり「サラダでもっともっとげんき」というお話にすること。

###### 思考を深めさせるための手立て

アフリカそうと他の動物との役割の違いや共通点を捉えさせるために、毎時間「登場の仕方」「材料」（本時では「味付け」）にサイドラインを引いたものと本時のものを比較させたり、動作化をさせたりする。

《社会科 第3学年 単元名「市の様子 ～瀬戸内海と山に囲まれた尾道市～」》

本時の目標

地図や写真などの資料から、地形と土地利用の仕方に関連づけて考えることができる。



扱った言語活動

考えた意見を交流し、土地利用の工夫について考える活動。

思考を深めさせるための手立て

地形と土地利用に関係があることに気付かせるために、ワークシートへ記入することで自分の考えを明確にもたせ、全体で交流させる。

《社会科 第5学年 単元名「日本の米作りを元気に！～地域で立ち向かう御調のお米～」》

本時の目標

JA 御調の人々の取組みについて調べ、地域みんなで、地域の米作りを支えていることを理解する。



扱った言語活動

JA 御調がなぜ農家を管理指導しようとしているのか話し合う活動。

思考を深めさせるための手立て

「御調の米」という信頼を消費者から得ようと努めていることを理解させるために、イメージマップをつかって考えをもたせ、交流させる。

《道徳 第1学年 資料名「うかんだ うかんだ」 1－(2) 勤勉・努力》

本時の目標

「ほく」が、「できるようにになりたい」と思い、努力した結果、できるようになったときの気持ちを考えることを通して、自分の目標に向かって、一生けん命努力しようとする道徳的態度を育てる。



扱った言語活動

主人公に寄り添いながら、気持ちを話し合う活動。

思考を深めさせるための手立て

主人公の気持ちに共感させるために、役割演技を行い、自分の思いを表現させる。

2 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を促すことで言語活動を充実させる。

《国語科 第5学年 単元名「注文の多い料理店」のおもしろさを味わうレシピを作ろう》

○学習材：物語のおもしろさを考えて読み味わおう「注文の多い料理店」東京書籍 5年下

○単元を貫く言語活動

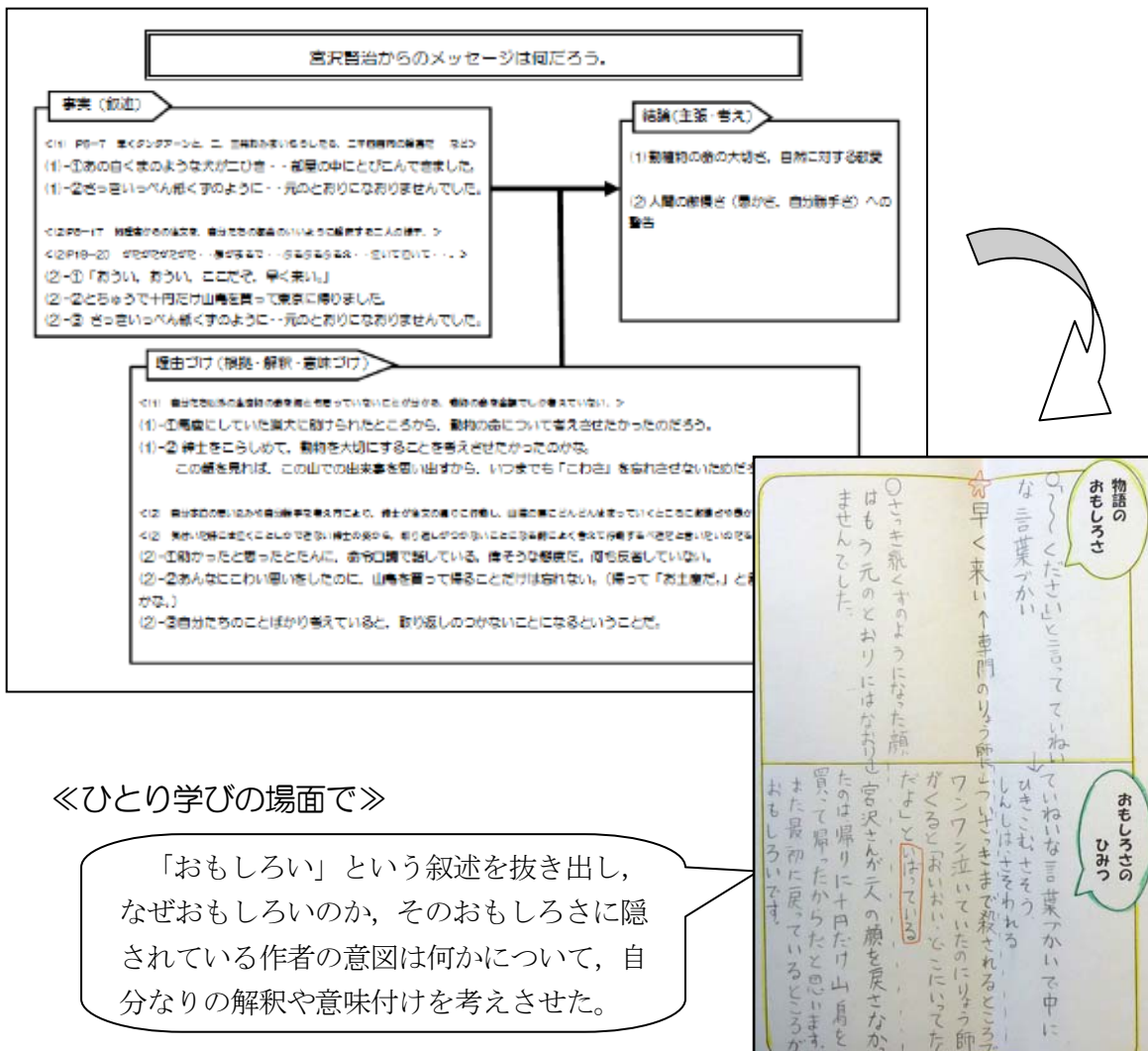
「注文の多い料理店」のおもしろさを味わうレシピを作ろう

「注文の多い料理店」のおもしろさを味わうレシピ作りを行い、作品から表現の工夫や話の展開の面白さを見つけ、それらの意味や作者の意図を話し合うことで、物語をより深く味わう力を身に付けさせる。

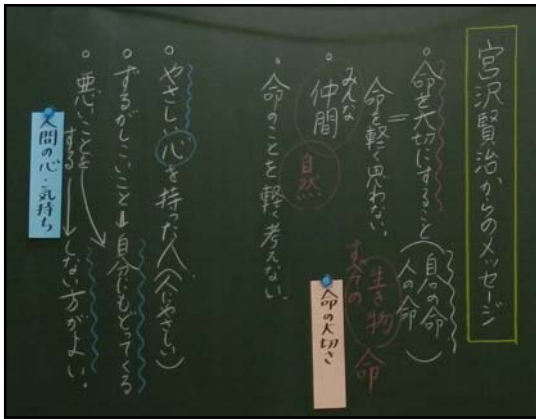
○本時の目標（6/7時）

現実世界に戻ってきた場面での面白さや紳士の変容を読み取り、宮沢賢治からのメッセージを考えることができる。

○授業者が分析した本時のツールミンの図式

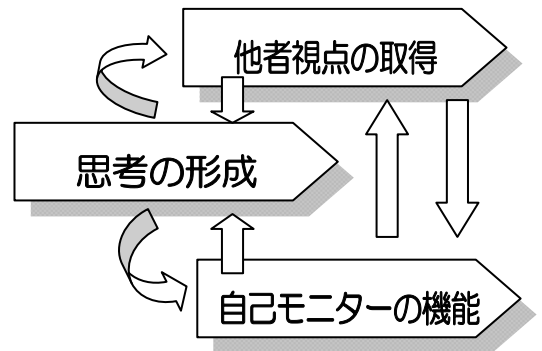


《集団思考の場面で》



児童の様々な意見を類型化し、児童の話し合いを深めるための手がかりとした。

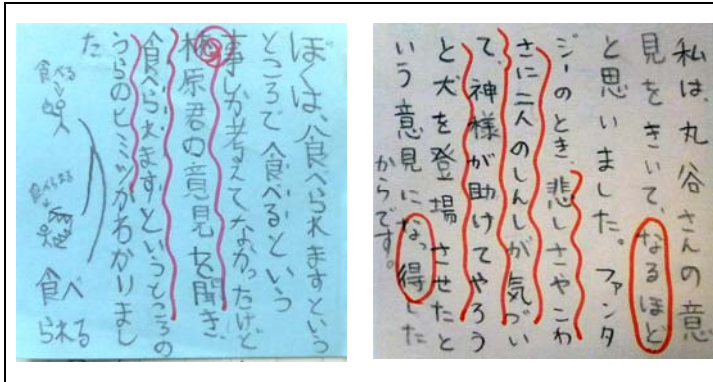
「理由付けを表す言葉」を使って、自分の考えの立場をはっきりさせながら、意見交流させた。



グループでの話し合いを取り入れ、友達の考えを聞き、考えを深める場を設定した。

私は「注文の多い料理店」を最初に読んだ時、どんなお話が分かりませんでした。でも、みんなと対話してこの物語を深く読むことができ、この物語はとても深く、メッセージが込められたものだと思いました。みんなと学び合えてよかったです。  
(児童のふり返りより)

《ふり返りの場で》



付箋紙を使い、友達の話聞いて感じたことは青色、自分自身の学びや学び方について感じたことはピンク色に書かせた。

## IV 基礎・基本定着のための取組

### モジュール授業

#### 1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつテンポ・タイミング良く教材を提示するツールとしては、電子黒板等の情報機器が効果的である。

#### 2 モジュール授業の内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国語科	<p>(音読) 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p>(辞書引き) 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p>(漢字の前倒し学習) 年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。そうすることで、漢字習得率の向上を図る。また、タブレットパソコンを活用して、個別指導の充実を図る。</p>	<p>(フラッシュ)</p> <p>各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習にしたり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p>
算数科	<p>(まず計算) まず計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p>(そろばん)</p> <p>低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
その他の教科	<p>(カルタ) 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。</p> <p>(タイピング) 情報機器活用能力向上を図るために、第2学年からタッチタイピングを指導している。</p>	

### 3 フラッシュ教材の開発

学力テスト等の分析結果を生かし、児童の学習の定着状況に応じたフラッシュ教材の開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し、どの学年の指導者も、当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり、活用したりできるようにしている。そうすることで、新出した内容だけでなく、既習事項の内容を確認することができ、より確かな知識を身に付けさせることができると考える。

#### 【取組の具体】

	国語	算数	その他（社会など）	教材開発が必要な物
3年	<準備体操> お口の体操 五十音 <現代詩・ことばあそびうた> 石・鉄棒・道程・天 雨二モマクス ことわざ（2種類）、 早口言葉、付け足し言葉  <伝統的な言語文化> 俳句、ことわざ  <漢字・言語> 3年生全漢字、リズム漢字3年 ローマ字、部首	百ます計算（たし算ひき算かけ算） 九九・穴あき九九 わり算 長さ かさ 小数と分数 大きい数 数のしくみ	地図記号 八方位 都道府県	俳句 慣用句 主語述語 数のしくみ

さがしてみよう！

**主語・述語**

白い大きな雲を見た

私の父は、大きな声を

出してよろこびました。

### 4 モジュール授業研究

児童により確かな力を身に付けさせるために、モジュール授業の授業研究を行っている。協議会では、その学年でつきたい力はどんなものか、より効果的な指導方法はないか、適切な指示や支援ができていないか、児童の達成感や意欲が高まる評価ができていないか検討し合う。



①モジュール授業研修（H24）のまとめ		
教科	成果（参考になった所・工夫している所）	課題
<国語>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声の大きさ、口形に気を付けていた。</li> <li>言いにくい所は、もう一度言わせていた。</li> <li>音読する前に気を付けて読む所を確認して、音読後それができていたか評価をしていた。</li> <li>音読の時、列ごとまたはグループごとに読ませて、それぞれのグループの良さを伝えていた。</li> <li>漢字の読み書きを定着させるために、音読でリズム漢字に取り組んでいる。</li> </ul>	☆高学年では、テンポなく、声の質を褒める（声を体に響かせる）
<算数>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タイムを計って記録をしておき、それを次への意欲付けにしていた。</li> <li>前回の記録を見るなどして、各自の目標をもたせて取り組ませている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前にプリントを前や日付等を記入し</li> <li>早く計算が済んだプリントを用意して</li> </ul>
<その他>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使うプリントなどは、事前に配布し名前や日付等を記入していた。</li> <li>本時の流れを黒板に書いておくことで、児童が次に何をすればよいかわかる。</li> <li>→空白の時間になりにくい。</li> <li>プリントの置く位置を決めておく、用意・片づけがスムーズにできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科から教科への切スムーズに行える。</li> <li>授業の後半で姿勢がよいので、集中力が続教材を工夫したり、ったりする。</li> <li>低学年で英語の位置</li> </ul>



## V 研究の結果と考察（中間）

### 1 授業検証

<p>検証の指標① コミュニケーションを支える基礎的な力を定着させることができたか。</p> <p>○「話し合い」「学び合い」への意欲（児童アンケート）</p> <p>Q. 友達と話し合ったり、考え合ったりしてよかったですか。</p>																					
<table border="1"> <caption>話し合い・学び合いへの意欲の割合</caption> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>とても</th> <th>まあまあ</th> <th>あまり</th> <th>できなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低</td> <td>60%</td> <td>35%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>75%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>高</td> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	とても	まあまあ	あまり	できなかった	低	60%	35%	5%	0%	中	75%	20%	5%	0%	高	70%	20%	10%	0%	<p>「話し合い」「学び合い」について肯定的に受け止めている児童は96%であり、目標値（82%）を大幅に上回っていた。</p> <p>その理由としては、「友達の考えを聞くことが楽しい」「考えを聞いて自分の考えが深まる」と回答している児童が多かった。</p>
レベル	とても	まあまあ	あまり	できなかった																	
低	60%	35%	5%	0%																	
中	75%	20%	5%	0%																	
高	70%	20%	10%	0%																	
<p>○基本的な話し方・聞き方が習慣化した児童の割合（観察）</p> <p>話し方聞き方が習慣化した児童の割合（%）</p>																					
<table border="1"> <caption>話し方聞き方が習慣化した児童の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	時期	割合 (%)	4月	65%	6月	75%	9月	80%	<p>基本的な話し方・聞き方が習慣化した児童は、4月から少しずつ増え、80%近くの児童が定着してきた。中でも、自分の考えと比べながら聞く姿が見られるようになってきた。</p> <p>だが一方で、「目的に合わせて話し合いを進めることが難しい」などの課題も見られた。</p>												
時期	割合 (%)																				
4月	65%																				
6月	75%																				
9月	80%																				
<p>○学力検査（広島県「基礎・基本」学力定着状況調査、全国学力調査） 後述</p>																					
<p>検証の指標②</p> <p>「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニター機能」を促すことで言語活動を充実させることにより、児童に豊かなコミュニケーション能力を活用する力を身に付けさせることができたか。</p>																					
<p>○学習前後における児童の考えの比較（記述分析及び観察）</p> <p>【国語科】 第3学年 「サーカスのライオン～じんざの日記を書こう～」</p>	<p>思考の深まり・広がりが見えた児童の割合</p> <p>86%</p>																				
<p>思考の形成</p>	<p>一日中おりの中でねむっていたじんざの気持ちを話し合った。学習を通して、じんざが退屈している理由を叙述をもとに考え、想像をふくらませて読むことができた。</p> <p>学習の始めには、少ししかじんざの気持ちを書けなかった児童が、学習を通して書けるようになった。</p>																				

【社会科】 第4学年 「きょう土に伝わるねがい」

なぜ先人が用水を切り開いたのか話し合った。まず理由を自分なりに考えて、話し合いを進めたことにより、友達の意見を聞く中で、新たな考えを獲得できた児童が多かった。

また授業の中で、例を挙げたり、仮定をして想像したりしながら用水がもたらす効果や影響について考え、理解を深めることができた。

思考の深まり・広がりが見えた児童の割合 73%

【道徳】 第5学年 「どこかでだれかが見ていてくれる」

端役を40年間やり続けてきた福本清三さんの思いを話合った。話し合いを進める中で、脇役も全体を支える大切な役割であることに気づき、当番などの仕事が面倒だと感じていた児童が、自分の仕事の大切さを感じられるようになった。

話し合い後に自分が何を学んだのか自分を見つめ、考えの変化に気付いた児童が多かった。

思考の深まり・広がりが見えた児童の割合 88%

○理由付けをして考えを深めている児童の割合（観察及び児童アンケート）

理由付けの考えを深めている児童の割合（%）

レベル	割合 (%)
低	82
中	68
高	72

Q. 見たり聞いたり読んだりしたことをもとに、理由をつけて自分の考えを書いたり、話したりしましたか。

レベル	とでも (%)	まあまあ (%)	あまり (%)	できなかった (%)
低	42	48	10	0
中	45	48	7	0
高	42	48	10	0

指導者の見取りから、理由付けをして考えを深めている児童は約72%であった。一方、児童アンケートでは約86%の児童が「考えを深めている」と回答していた。多くの児童は、自分なりに理由付けをして考えを深めているととらえているが、指導者の期待する姿とは少し差があることが分かった。

思考の形成

思考の形成

- 自分なりの意味づけ・解釈をつけて理由を書いたり話したりしようとする児童が増え、意欲が高まりつつある。
- 既習事項や自分の経験・体験をもとに自分なりに理由を考える児童が増えた。高学年では、「例えば」、「もし～なら」というような例えや仮定の考え方を使って、物事をより深く考える学びができつつある。
- ▲ 他者の考えに関連づけたり、発展させたりして考えを広げることは難しく、指導者の期待する理由付けの姿と児童の姿に差があることから、児童に考える視点を増やしていく必要がある。

他者視点の取得

○学習後のふり返りの記述  
【社会科】 第6学年 明治維新

アンケート結果から、友達の考えや意見のよさを感じている児童は90%と目標値(80%)を上回っていた。また学習後のふり返りから、多くの児童が友達の考えを取り入れて、学びを深めていることが分かった。

だが自分の考え方や学び方にどう生かしていくか考えを及ぼしている児童は少なく、アンケート調査でも約20%の児童が、自分の学び方の工夫した所や見直した所が実感できずにいることが分かった。

自己モニターの機能

○他者とのかかわりや自分の学びに対する意識(児童アンケート)

Q. 友達の考えや意見で「なるほど」と思ったり、「いいな」と感じたりしましたか。

レベル	とても	まあまあ	あまり	できなかった
低	75%	15%	5%	5%
中	75%	15%	5%	5%
高	75%	15%	5%	5%

Q. 学習を通して、自分の考えが深まったり、自分の考えが友達の役に立ったりしましたか。

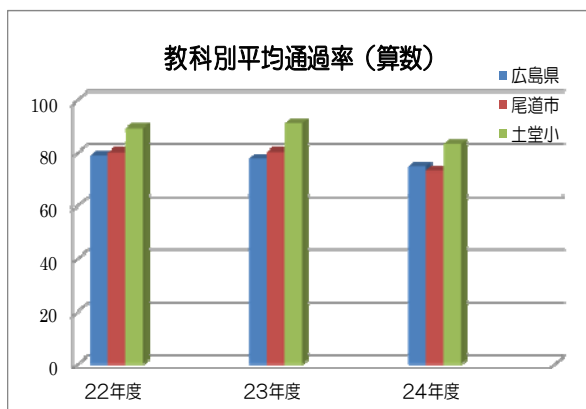
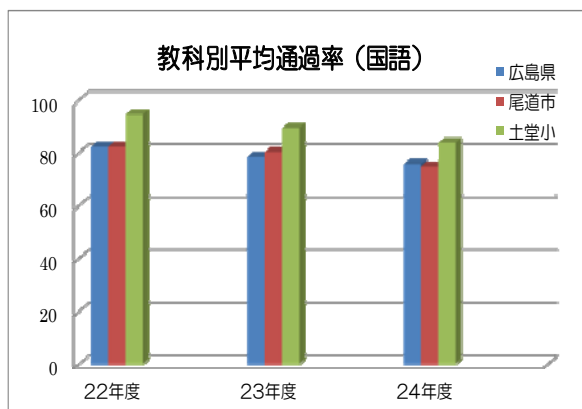
レベル	とても	まあまあ	あまり	できなかった
低	55%	35%	5%	5%
中	50%	35%	10%	5%
高	50%	35%	10%	5%

他者とのかかわりや自分の学びの充実感を感じていた児童は90%を上回っていた。目標値(82%)を大幅に上回っていた。自分の考えが友達の役に立っただと感じている児童は、友達の考えが自分の学びになったと感じている児童ほど多くなかった。

- 他者の考えと自分の考えを比べて聞き、友達の考えのよさや面白さに気付いたり、どんなことが勉強になったのか(学びとなったのか)ふり返ったりすることができつつある。
- ▲ 他者の意見のよさを取り入れて自分の学びに生かしたり、自分の考えが深くなった所を考えたりしながら自分自身の学び方を見直し、改善していくことに課題がある。

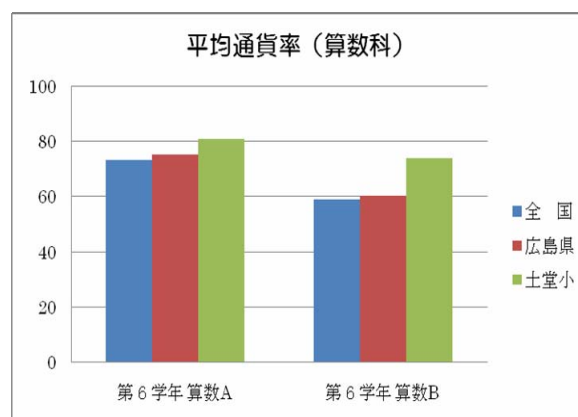
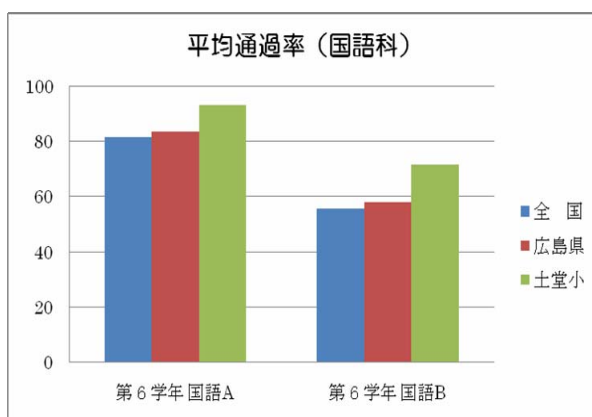
## 2 学力検査

### (1) 広島県「基礎・基本」定着状況調査 ー第5学年（国語科，算数科）ー



- 通過率において、国語・算数ともに県平均よりも上回っている。
- 国語は83.9ポイントで県平均（75.8ポイント）よりも8.1ポイント上回っている。
- 算数は83.4ポイントで県平均（75.0ポイント）よりも8.4ポイント上回っている。

### (2) 全国学力・学習状況調査 ー第6学年（国語科，算数科）ー



- 国語Aは93.2ポイントで、全国平均（81.6ポイント）よりも11.6ポイント上回っている。
- 国語Bは71.7ポイントで、全国平均（55.6ポイント）よりも16.1ポイント上回っている。
- 算数Aは81ポイントで、全国平均（73.3ポイント）よりも7.7ポイント上回っている。
- 算数Bは73.8ポイントで、全国平均（58.9ポイント）よりも14.9ポイント上回っている。

## VI 研究のまとめ(中間)

### 1 成果

- ① 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業を仕組むことで、話し合いや学び合いのよさに気づき、学習への意欲を深めた児童が増えた。
- ② 指導者がトゥールミンの図式を活用することにより、事実と主張と理由付けを整理して教材分析することができ、授業に生かすことができた。
- ③ 他者との関わりや思考を深める場を設け、理由付けの言葉を活用することで、児童が既習事項や自分の経験や体験をもとに、意味づけ・解釈をしながら理由を書いたり説明したりするようになった。高学年では、「例えば」を使ったり、「もし～ならば」という仮定の考え方を使って、考えを広げたり深めたりする姿が見られるようになってきた。
- ④ 友達の考えのよさや自分の学びを意識させたふり返りをさせることで、友達の考えのよさや面白さに気づくと共に、学びを通して自分の成長を感じられる児童が増えた。

### 2 課題

- ① 理由付けをして思考を深める姿に指導者と児童の意識の差があり、理由付けの仕方が事実を抜き出すことに止まっている児童もおり、個人差がある。
- ② 自分と他者の考えを比べたり付け加えて話し合いをすることはできるが、考えを関連付けたり、発展させたりして学びを深めていくことが十分でない。
- ③ 他者の考えのよさを自分の学びにどう生かすかという意識が弱く、自分の学び方そのものに目を向けている児童が少ない。

### 3 今後に向けて

#### 【課題① 理由付けの深まりと個人差】

- 児童が事実を読み取り、理由を書く活動を充実させると共に、個別の支援を行い、一人一人の思考が深められるようにする。その際、考える視点を与えたり、助言したりして児童の思考の引き出しを増やしていく。

#### 【課題② 関連づけたり発展させたりする学び】

- トールミンの図式を活用した教材分析を生かし、授業者が児童の考えを整理し対照させて吟味させる授業を構成し、児童が他者の理由付けや主張を自分の理由付けや主張と関連づけながら考えを広げたり、深めたりする授業を仕組んでいく。
- 短冊や掲示を活用しながら、「理由付けを表す言葉」を使って継続的に思考を促す場面を取り入れていく。

#### 【課題③ 自分の学びや学び方に目を向ける目】

- 自分の学びや学び方に目を向けさせるように、ふり返りの視点を生かした活動を工夫する。
- 友達の考えを自分なりにどう生かすか(学びの目的と照らし合わせ、友達の考えのどこを使って、どこを自分の学びとして工夫するのか)考えさせるような場面を単元に位置づけ、単元を通して自分を見つめる目を育てていく。

## 平成24年度 ご指導いただいた先生方

広島大学大学院	教育学研究科	教授	林 武広 先生
広島大学大学院	教育学研究科	教授	小原 友行 先生
明星大学	教育学部教育学科	教授	吉富 芳正 先生
兵庫教育大学大学院	学校教育研究科	教授	谷田 増幸 先生
福岡教育大学	国語教育講座	准教授	河野 智文 先生
広島県東部教育事務所	教育指導課	指導主事	神原 芳則 先生
広島県立教育センター	教科教育学部	指導主事	祭田 学 先生
尾道市教育委員会	教育指導課	主査	安井 盛一 先生
尾道市教育委員会	教育指導課	指導主事	本安 公範 先生
尾道市教育委員会	教育指導課	指導主事	阿世比丸佐保里 先生

## 平成24年度研究同人

田坂 裕一	金野 誠志	土井 尚美	川本美紀子
島本佳代子	櫻田 仁美	隆杉 佳代	槇田 有香
石津 誠	植木 雅子	牟田小百合	大野 耕作
松田 鯉栄	大山 陽子	才谷 瑛一	佐藤 恵子
住田哲太郎	長尾ひろみ	安保 有美	寺岡 葉子
福本 英司	北島 育子	高橋 洋子	鈴木真由美
貝川 充洋	住田 鈴江	柏原ひとみ	Anna Silva



TSUCHIDO ELEMENTARY SCHOOL